

もしくはそれ以外でも結構だと思いますが、2つ3つぐらい例えば試験的にのせてみるというふうなこともあるのかなというふうに思いますが、その辺のことについて再度市長にお伺いをしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答え申し上げます。

その他、市長が特に認めるものも含めて5項目ですよね。それは、全て現在やってる事業に充てさせていただいてるという格好なんですね。したがって、新たな事業にそのお金を使わせていただくということの項目はなかなか難しいと。というのは、じゃあ寄附額が集まらなかったらその事業の足りない部分はどうするんですかということになりますので、したがって、長井市がこういった事業をしますよということで寄附の部分もそれにプラスさせていただくというような事業の場合でしたらいいかとは思いますが、例えば項目をふやしたとしても、それは現在長井市が行ってる事業の部分に充てさせていただくということになるんだと思うんですね。ですから、平議員おっしゃるのもよくわかるんですけども、やっぱりこれは目的をちゃんと明示して、この事業をやりたいから寄附を下さいというガバメントクラウドファンディングということで募るべきだと思います。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** この寄附の部分についてはその一部を充てさせていただくというふうなことで、先ほど最後に申しあげましたガバメントクラウドファンディング、これについては例えば先ほど市長からありました長井小学校の第一校舎、この部分を免震化するんだというふうな部分でしっかりと明示して、別途にやるものではないかなというふうに私自身ちょっと感じたところがありますので、なおご検討いただければ大変ありがたいなというふうに思ったところがございます。

時間となりましたので、私の一般質問をこれで終了させていただきます。大変ありがとうございました。

## 金子豊美議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位7番、議席番号3番、金子豊美議員。

(3番金子豊美議員登壇)

○**3番 金子豊美議員** 昨年6月、初めて一般質問をさせていただきました。大汗をかきかき、ただひたすら原稿を読むだけの質問でありました。あれから1年、初心忘るべからず、心新たに一般質問をさせていただきたいと思います。

私からは、大きく分けて2つの項目について質問をさせていただきます。

なお、昨日の一般質問と重複する部分もあるかと思いますが、ご了承いただきたいというふうに思います。

最初に、市北部の環境整備について質問をさせていただきます。

初めに、28年度施政方針の中から、長井創生重点施策、総合戦略を進める重点施策2の新しい人の流れをつくる取り組み、2番ですが、魅力ある住環境の整備について質問をさせていただきます。

施政方針の中で、「台町地内に造成した『花咲きタウン・みずはの郷』は、市外の方にも購入していただくなど、移住定住に大きな成果を上げており、今後も、新たな宅地開発候補地の検討を進めてまいります」と述べています。

昨年6月の一般質問において、市北部の振興戦略等について質問をさせていただきました。長井市は北部だけでなく、白川南部、伊佐沢も含めておこなっている、市街地は野川と白川と最上川の間が中心となり、西に伸びるのが自然の

形だと思ふとの答弁をいただきました。現在、市長の答弁のとおり、市街地に接している平野地区に住宅が次々と建設されております。大型商業施設にも近く、便利な立地条件にも恵まれている環境が自然に宅地造成につながっていると考えられます。

長井市は、仙台市と新潟市、また山形市と米沢市の間地点とよく言われます。長井市、白鷹町から山形西工業団地を初め山形市内の企業、米沢市の八幡原工業団地や米沢市内の企業に勤めている人がいるというふうなお話もお聞きしております。あかしあ産業団地は現在、旧山形マルコンの跡地、現在は日本ケミコン所有でありますけれども、東芝ライテックの撤退により空き地が目立ち、今後不安を抱える市民の声が多く聞かれます。

一方、最上川と葉山を含む西山、フラワー長井線がことごとと走る田園風景、天候によっては北中学校北部の田園やあかしあ橋の上から磐梯山が見えます。いち早く学校運営協議会制度、いわゆるコミュニティースクールを導入し、学校支援地域本部事業とあわせて進めることで地域全体で子供を育む学校教育を目指す致芳、西根の小学校。また児童センター、小学校、地区公民館が一体となった教育環境のよさ。地域づくり計画を中心としたコミュニティーセンター化による地域づくりの推進など、今後子育てや生涯学習の推進など、安心して暮らせる地域、それが市北部地区だと思います。

また、南中学校と北中学校の生徒数に大きく差が出ているのも現状であります。学区の再編なども考えられると思いますが、中央市街地北部、致芳地区、西根地区を対象に宅地開発候補地の検討を進めるべきだと思いますが、現在の市長の考えがあればお聞きしたいと思います。

2つ目の質問であります。水資源の豊かさを生かした企業誘致について質問をさせていただきます。

昨年6月の一般質問答弁の中で、企業誘致を進めていく中で長井市のネックとなっているのが企業側の輸送コスト、ここで製品をつくってその供給地に運ぶ、需要地に運ぶ、そのときにまでかかる輸送コストが長井市の場合は極めて不利な条件となっている、北部は水資源が豊富なので、それを生かして食品加工等々の製造業などに立地できるよう努力してるところですと答えておられます。その後の経過について、どのように進めるのか市長にお聞きします。

3つ目の質問であります。野川左岸の整備について質問をさせていただきます。

ことしもあやめまつりが始まりました。フラワー長井線から眺める公園も一味あります。あやめ公園に対する市民の思いは強い。昨年、一般質問の中で使った言葉です。公園の今後の改造については、市民の意見を聞いたり観光協会の方々とさまざまな委員会をつくって検討に入りたいとの答弁をいただきました。着々と進められることを見守りたいと思います。

谷地橋の下流も含め、フラワー長井線下流の右岸は駐車場として整備されております。お昼の休憩など、利用者も多くいるようです。対して、左岸は雑草や雑木が生え、せっかく公園を訪れた人々の目にはどのように映るのでしょうか。現在、地域のボランティアの方々草刈りをしています。しかしながら、限界もあります。置賜野川河川環境整備の早期着工について、29年度長井市の重要事業要望書にも載っております。谷地橋の下流も含め、フラワー長井線の下流からあかしあ橋、最上川の合流地点までの整備について、関係機関への要望なども含めて市長のお考えをお聞きします。

次に、生きる力を育む事業について質問をさせていただきます。

最近、各地で整備の整ったオートキャンプ場が人気を呼んでおります。水、トイレが行き届き、手軽で気安く利用できるのが特徴だと聞い

ております。

長井市には、古代の丘や葉山森林公園、八ヶ森公園などの自然を生かした施設があります。かつて長井市では、その施設を利用して縄文キャンプや桑住平キャンプ、酒田市浜中地区との海の子山の子交流など、市内外の子供たちが参加、交流を深めながらさまざまな体験を行い、その後、地域のリーダーとして活躍できる育成事業を行ってきました。当時事業に参加した子供たちの中には、現在、市役所職員として日々市民のために頑張ってる人もおります。

先日、北海道で7歳の少年が約1週間水だけで過ごし、無事発見された事件がありました。子供の体力、精神力の頼もしさと強さに感激した事件でもありました。今後、地震や洪水などの自然災害がいつ起こるかわかりません。また、大きな事故に巻き込まれることもあるかもしれません。子供たちには、強くたくましく育てほしいと願っております。

そこで、自然を生かした施設を利用して市内外の子供たちが体験、交流をしながら生きる力を育む事業を企画してはどうでしょうか。将来の長井市のためにも必要な事業だと思います。また、長井市東京事務所もあることですから、例えば都会の子供たちにも参加をしていただき、長井市のよさを味わいながら体験、交流していただく、そして長井市に関心を持っていただくことも大切ではないでしょうか。

子供のころの思い出は一生記憶に残ります。将来を見つめた種まき作業が必要だと思います。市長の考えをお聞きします。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 金子議員のほうから大きく2点ほどご質問いただきました。順次お答えを申し上げます。

まず最初に、市北部の環境整備についてとい

うことで、議員からは宅地開発は市北部を中心に検討すべきではないかというご提言、ご意見でございます。

宅地開発事業として実施いたしました花咲きタウンみずはの郷につきましては、中央地区の台町ということで、分譲30区画のうち8世帯、人口にして約30名が市外からの移住、またはUターン者でございまして、定住人口、移住人口の増に効果があったと思います。

また、第五次総合計画の市民の意向調査を2年に1回実施しておりますけれども、これまでの調査で長井市に住みたい人というのが66%でございしますが、その要因といえますか、なぜかということについては、長井市に持ち家があることということが大きい1位であったということから、いかに持ち家が大事かということを再認識したところでございます。

次期の宅地開発事業につきましては、昨年11月に長井市宅地開発事業計画検討委員会を設置いたしまして、現在、適地の検討を進めているところでございます。良好な住宅用地となり得る宅地開発の候補地として現在7カ所の土地の調査、検討を行っておりますが、候補者の中には清水町、幸町、成田地区の市北部も4カ所ほど含まれております。北部には議員おっしゃるように野川を初め一級河川が数多く走っていることもあり、非常に景観はいいんですが、なかなかまとまった土地が確保しにくい難しい環境ではございますが、検討委員会では、北中学区内に造成する案も含めて検討をお願いしてるところでございます。

長井市として、今後の宅地開発事業はこれからの地域の活性化、あるいは長井版のCCRC、例えば首都圏を中心に一旦リタイア、リタイアといっても50代、60代の方がメインでございしますが、こういった方々の移住定住の受け皿という考え方ですけども、それとか、子育て支援という意味でも大変重要なプロジェクトだと考え

ておりますので、検討委員会の方がたからの専門的な知識やご意見を踏まえて、開発区域の選定や分譲の規模、効果的な順位づけ、それに伴う事業費や分譲価格等を総合的に判断し、市民の居住ニーズを満たす良質な住宅地の選定を行ってまいりたいというふうに考えております。

なお、昨年、伊佐沢地区の地区長会のほうから伊佐沢小学校の子供が一部複式学級になると、ぜひ伊佐沢地区に宅地開発をやってほしいというような要望がございました。やはり北部のほうも西根、あるいは致芳のほうで若い人たちが、子供が減ってるからということでぜひという議員のご提言でございまして、ごもっともなことでございます。長井市としては中央地区にできるだけ新たな住宅などは誘導したいという思いはありますが、私どもで行ってる事業、直接やる事業と、あと民間の宅地開発事業というのは近年はなかなかリスクが大きく採算が合わないということで停滞ぎみでございましたけれども、3年ほど前から私どものほうで、民間の宅地開発事業に対して道路の整備等々で補助金などを用意しております。これらを29年度からはさらにもう少し手厚い支援をして、民間の宅地開発事業を行っていただけるようなことも考えなきゃいけないし、あと、やる場合はやっぱり各地区に、北部だけじゃなくて、平野は必要かどうかわかりませんが、平野も含めて、平野は民間がどんどん進んでますので、平等に各20区画ずつとか、そういったことなどもやるんだったら考えなきゃいけないんじゃないかと。やっぱり北部だけというのはなかなかバランス的に難しいのかなというふうに思っておりますが、いずれにしろ重要な政策だと思っておりますので、今後議会からも、あるいは市民からもご意見をいただいて検討してまいりたいと思います。

次に、(2)の水資源の豊かさを生かした企業誘致についてということでございます。

これは議員のお話がございましたように、昨年、あかしあ産業団地内にある工場跡地利用等でどうした戦略を持ってるかについてご質問をいただきました。そのときは、山形マルコン跡地にこれまであった引き合い等などを紹介いたしまして、良質な水資源等が長井の売り、強みでございまして、食品加工等の企業誘致を進めたい考えをお伝えいたしました。実際に食品関係の引き合いも近年、ここ一、二年の間でいただいております。以前は、六、七年前は自動車関連の企業からも引き合いがございましたが、残念ながらミスマッチと申しますか、うまくそぐわなかったということで、やはり初期投資を企業側としては抑えたいということで賃貸を希望する、あるいは空き工場をすぐ使いたいというような希望、照会が多いようでございますので、特にあかしあ産業団地は近年いろいろ整備がされておりますので、まずは昨日の内谷議員の質問でもありましたように、市の工場用地としてすぐ提供できるのが寺泉地区の1カ所だけでございますが、次にあかしあ産業団地内の工場の跡地とかそういったところを紹介し、また将来的には、それでも合わない企業というのはもちろんあるわけでございますので、そういったためのさまざまな場合を想定しての新たな造成なども検討する時期に入ってるのかなというふうに考えているところでございます。

企業誘致というのは、私ども長井はものづくりの企業でございまして、既存の企業にとってもプラスになりますし、あるいは製造業に限らず、ぜひ若い人たちの働く場をつくるということで今後も努力してまいりたいと思います。

続きまして、3点目でございますが、野川左岸、特にフラワー長井線下流の整備を進めるべきではというご意見についてお答え申し上げたいというふうに思います。

置賜野川につきましては、昔ながらの河川区域の中に堤防、高水敷、低水路がつくられてお

りまして、高水敷というのはいわゆる河川敷という言い方でいいかと思うんですけども、流量に対する安全性は以前から確保できている河川と言えます。これは全て県管理の河川であるということがポイントでございます。近年、長井ダムが竣工したということもあって、長井ダムの貯水能力というのは東北でも有数でございますので、そういった意味では、羽越水害から間もなく50年なんですけれども、羽越水害級の豪雨がいったとしても直接野川に大量に放水せざるを得なくなって堤防が決壊するような、そういった確率は非常に低いというふうに考えてます、もちろんゼロではないわけなんですけども。そういった状況だと考えてます。

野川の右岸について、こちらの町場側ですね。あと平野側については、高水敷の河川敷の幅が広いということもあって、谷地橋下流にふれあいの水辺河川公園、県でこれ整備いただきました。あとフラワー長井線陸橋の下流にあやめ公園の駐車場が整備されております。しかしながら左岸については、谷地橋の上のほうは河川敷、高水敷の幅がある程度あるんですが、その下流は非常に狭いということで、公園や駐車場の整備には難しい区間もあるというのが実態です。現在、当区間の維持管理については、山形県ふるさと川愛護活動支援事業、あるいはきれいな川で住みよいふるさと運動等々で地区やさまざまな団体、企業の皆様に草刈りやごみ拾い等々のご協力をいただいております。長井市といたしましても、長井市の重要事業要望書におきまして、置賜野川河川環境整備の早期着工についてと題しまして、右岸のあやめ公園と左岸のはぎ公園を本市の代表的な観光スポットとしてさらなる活性化を図るため、兩岸を結ぶ河川敷横断施設、要は木橋みたいな橋をぜひということや、多目的広場等の親水に配慮した河川空間構築のための河川環境整備事業の早期着工を数年来、県に対して要望してるところでございます。

ます。

金子議員のおっしゃるように、今後も公園内の整備だけではなくて、周辺の環境整備を含めた事業及び維持管理についてさらなる要望活動を続けていくとともに、当市においても積極的に取り組んでいきたいと思っております。見るに、野川より特に下流のところは河川木が生え放題といえますか、ブッシュになってますんで、あの辺をきれいに県のほうに管理していただくように粘り強くお願いしていかなければならないというふうに思います。

4つ目でございますが、2点目の生きる力を育む事業についてということで、市内外の子供たちが体験、交流をしながら生きる力を育む事業を企画してはどうかというご提言をいただきました。

議員からは具体的な例なども挙げていただいて、さすが地域づくりの活動をなさってきた金子議員だなというふうに思ったところでございますが、議員おっしゃるように、子供たちが生きる力を育むことはとても重要なことございまして、強くたくましい子供に育てて次代を担うような人間に成長して欲しいと願うところでございます。

市では、議員もご存じのとおり、長井市子供会育成会連絡協議会の事業として、ジュニアリーダー研修会を毎年4回ほど開催しております。地域の子供たちのリーダーを育成する事業を行っております。昨年度事業といたしましては、KYT講習と言われる危険予知トレーニング講習を実施いたしまして、自然の中や自分の身の回りの中で事故や危険を未然に防ぐ方法を学んだほか、防災探検マップを作成するなど、自然や地域の中で活動するすべについて研修をいたしましたところでございます。今年度も同様に研修会4回予定しております。水害に関する講習会やAEDの講習、カヌー体験、野外炊飯体験等を実施することとしております。実施会

場につきましても、自然を活用した施設を選定する予定でございます。

しかしながら、市内の子供が少なくなっているということも事実でございまして、市外の子供たちとの交流についても前向きに協議会等で検討していかなければならない課題だと思っております。議員のご提言のように、長井市東京事務所を通して都会の子供たちがふだん体験することができないようなメニューを長井の子供たちと一緒に体験をし、そのことによって新たな交流も生まれるものと思っておりますので、前向きに検討させていただきたいと思っております。

大田区のほうは人口が70万人で、小学校が百二、三十校あるはずですので、その中の紹介いただいて、マッチングしてこれはぜひというような小学校と、例えば致芳小学校、西根小学校とか市内の小学校が交流する、あるいは市内の農業団体とか農家のほうからご協力をいただいてグリーンツーリズムといいますか、農業体験等々もさせてあげたいなど。今度は逆に私どもの子供たちが東京大田区のほうでいろんな体験をすると。市内でいえば伊佐沢地区が沖縄の金武町と交流してるようにやっていきたいなど。ただ、沖縄はちょっと交通費がかかり過ぎてなかなか負担が大変なものですから、東京あたりですと近くて交流するにはいいのかなというふうに考えているところでございます。

なお、東京事務所の櫻井顧問のご紹介で、池上本門寺を事務局とするボーイスカウトの大田第17団というのがございますけれども、8月13日から22日まで、古代の丘を会場にキャンプを行うこととなっております。3年前も大田区のボーイスカウトの、たしかあのときは8団だか、いっぱい団があるんですけども、50名ぐらい来ていただきましたけれども、今回も小学生から高校生まで、今回は総勢150名、指導者30名がいらっしゃるといことで、滞在期間中に野菜

収穫体験やハイキング、祝瓶の登山、そば打ち体験等を行う計画となっているようでございまして、この事業については長井グリーンツーリズムネットワークが主に受け入れまして、市でも応援をすることとしております。

以上でございますが、ぜひ今後ともいろいろご提言などを賜ればありがたいというふうに思っています。

○**渋谷佐輔議長** 3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** いろいろご答弁いただいて、どうもありがとうございました。

今の最後の生きる力を育む事業ということで、今回、大田区のほうからボーイスカウトが来るという今お話いただいたわけですけども、やはりいろんな機会を通じて都会の人がこちらに来て体験をしていって、将来大人になったときに長井に行ったっけな、こういうまちだったなというふうなことを思って、そしてまた将来長井市に行ってみんべというような気持ちを持っていただくというような、そういう地味だけでもそういう活動が大事だというふうに私考えてますので、ぜひこの事業を初めいろんなことを企画して、今後も進めていただければというふうに思ったところです。それから、東京事務所もあるわけですので、よろしくお願ひしたいというふうに思っています。

それから、先ほどの水を使った誘致関係、きのうも内容議員の質問でお答えいただいたわけですが、やはりなかなか今の工業団地にそくつと移ってくるといっても広い敷地もありますし、あと維持管理等でかかる建物もあるようです。また、建物があっても改装しなければならないという建物もありまして、なかなか企業を持つてくるのは難しいとは思いますが、その辺はじっくりと誘致に力を入れながら、勤める場所を設定していただきたいということをお願い申し上げます。

それにあわせましてですが、やはり地元で就

職なければほかさ勤めるという、市外に勤めるということしかないわけですので、その辺、1番目の質問とも重なるわけですが、住宅地の整備、そういったものをやはりできるだけ早く進めていただいて、今後人口が何ぼでもふえる、勤め先がなくても長井からほかさ通ってもいいから住む人間がふえるというふうなことをやっていただきたいというふうに思いますが、その辺、再度市長にお伺いしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 金子議員おっしゃいますように、考え方として一番いいのは長井市内に勤められるというのが一番いいんですけども、市内に希望する企業がなかった場合は、長井から勤められる範囲内というのは、やっぱり男性でしたら山形、米沢ぐらいだったら大丈夫だと思うんですね。女性ですとなかなか大変なので、女性の場合は山形とか米沢に住むというケースが実際は多いようございしますが、その基本となるのは長井にやっぱり住み続けたいと思えるような政策が必要だと思って、私どもで昨年策定した総合戦略は、働く場をつくるというのが本来は地方創生の一番の目的なんですけれども、地方創生のまず事業というのは5年間、昨年も含めて5年間ですから、今後、残り4年間で働く場をしっかりとつくっていくということは重要なんですが、どれだけ成果が上がるか、やっぱり難しい部分もありますし、広域で働く場は考えなきゃいけないと私は思ってます。したがって、教育とか子育てを特に力入れよう。そこで必要になるのが、金子議員おっしゃる若い人たちが住みたいと思えるような住環境だと思ってます。したがって、中央地区に限らず、周りの5地区にも市としてやっぱり宅造を考えていくということも検討しなきゃいけないと思いますので、その際には議会のほうからもいろいろご意見、ご提言、そして応援をいただければというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** ぜひそのようにお願いしたいというふうに思います。

それから、あやめ公園の向かい側の河川敷の件であります、確かに遊水池とかいろんな部分でいろんな設備をつくるのも大変だというふうにお伺いしております。市長も先ほど話しておられたように、木がどんどん伸びてきて、何回か皆さんもあやめ公園さ行ったと思うんですが、とにかく公園の中見るよりも外見るとぼわぼわぼわこうなってるというような状況で、県が管理してるという部分もあってボランティアでやってるんですが、やはり高齢者関係ですとなかなか木切ったり何かするのも大変だということもありますので、ぜひ要望を強くしていただきながら、今後県のほうにお願いしていただければというふうに思ったところでした。

あと、最後の質問になるわけですが、質問というかお願いも含めてであります、先ほど致芳、西根、北部のほうを重点的に造成のほう考えていただきたいというような話をしたわけです。当然平野のほうもだという意見も後ろのほうから出ておったわけですが、結構長井市内を回ってみますと、アパートとかそういったものも含めて、市街地北部のほうに建ってるわけです。地元では要らないという方もおられるようですが、そうではなくて、アパートに住む方と一戸建てに住む方というのはやはり違うと思うんですよ。一戸建てというのはある程度定住、長く定住するという、そういう気持ちでいるというふうなこともありますので、ぜひ致芳、西根、北部、それからあと平野、豊田、伊佐沢も含めてでありますけども、その順序にしてくださいというわけではありませんが、広い目で見ながら市内全体のバランスを考えて今後進めていただきたいというふうなことをお願い申し上げまして、私のほうからの質問を終わらせていただきたいと思っております。どうもありがとうございます。

した。

## 今泉春江議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位8番、議席番号8番、今泉春江議員。

(8番今泉春江議員登壇)

○**8番 今泉春江議員** 日本共産党の今泉春江でございます。内容市長に3つの質問をします。

私はこの間、さまざまな団体の総会に出席し、その会員の方々と懇談してまいりました。さらに、多くの市民の方々と会話をしてまいりました。その中では、議会だよりではわからない議会の様子、今、議会ではどのようなことが議論されているのか、何が問題となっているのかなどを報告しながら、市民の皆様のご要望やご意見などを伺ってまいりました。

多くの市民の皆様は、どなたも消費税が増税されてから生活が苦しい、厳しい、年金、医療、介護など、どれをとっても私たちにはよくなっていないとの年金生活者の声。アベノミクスは大企業だけ潤い、我々地方の零細企業はますます大変になるばかり、3本の矢は的が外れているのではないかと。小売店や飲食店などは材料や仕入れの価格が上がっており、利益が上がらない、経営は厳しいとの声。若い方は、派遣で何年も同じ仕事で働いているが、お昼休みなど15分しかなく、こんなに働いても給料は全然上がらない。一億総活躍などと言っているが、このままでは活躍などできるはずはない。この給料で結婚もできない、何とかしてほしいなどなど、厳しい現状を嘆いておられました。国の政治がどんなにか大きく市民生活に影響していることを痛切に感じてまいりました。

このたびの質問は、市民の皆さんのそんなたくさんのご意見やご要望の中から、次の3点に

ついて質問いたします。

まず最初の質問は、ヨークベニマル長井店撤退後の対策についてです。

中心市街地にあった大型スーパーが撤退し、3カ月半が過ぎました。今、市民の最大の関心かつ重要な要求は、撤退後の対策です。撤退後は歩行者もほとんどなく、車の往来も極端に少なくなり、今までとは一変してしまいました。まるでゴーストタウンのようだと話す市民もあり、まさにそのとおりの様子です。まず、買い物に困る市民が多数出てしまいました。また、スーパーがあった近くの商店では、撤退後お客様が激減し、一日も早く次の方に入店してにぎわいを戻してほしいと深刻な様子で訴えています。

考えますと、近くの商店街の方々も撤退したスーパーも、お互いに重大な相乗効果があったことが改めてわかりました。長井市では、観光交流センターの建設が来年4月の完成を目指して急ピッチで進んでいます。市は、この建設が中心市街地活性化の大きな目的であると言ってきました。しかし、これでは長井市にとって活性化に逆行することになるのではないかと危惧をいたします。

撤退の影響は買い物客だけの問題ではないこと、市民の暮らしに重大な影響を与え、まち全体の大きな問題となっています。今、市民は、この空き店舗の活用について最大の関心を持ち、期待をしています。さまざまな臆測も出ており、市民は混乱しています。

そこで、市長に伺います。まず、現在空き店舗となったタウンセンターの建物の活用についてどのように取り組まれておられるのか、その現状と見通しについて伺い、そして一刻も早く再建が実現するよう、全力を挙げられるよう要請します。

次に、買い物に困っている方についてです。撤退前には、1日1,200人の利用者がいました。